

大東亜戦争終結七十周年 ～靖國神社にて～

本年も、八月十五日の正午に、伊勢一の宮樺大神社のお計らいで、靖國神社に正式参拝をさせていただきました。

正午には、靖國の杜は蝉時雨以外、一切のざわめきが消えました。一分間の黙祷で、日本国家のために、一身を御国に捧げられ、今日の繁栄の礎と散華された二百四十六万六千余柱の靖國・護國のご英靈に、慰霊と感謝の誠を捧げました。

今上陛下が、誕生日の会見で述べられた「より良い日本をつくる努力を続けること」が脳裏によみがえり、会計人として、中小企業の経営者としての使命を再度、強く心に誓いました。

同時に、終戦後のGHQによる巧妙な日本人洗脳プログラム「WGIP」からの脱却に、微力ながら持てる力で精一杯努めることも誓いました。

昭和天皇が、終戦後、木下道雄侍従に「今の日本の世論というものは、どうも力強くない。これを力強くするためには、どうしても国民の教養をもっと高めなければならない。それから信仰心を深めなければならない。そういう絶対のものを心に持つか持たないかというところに、人の力というものがわかるのだ。教養が高くなれば、物事を判断する力が出てくるから、流言飛語にまどわされるという様な事も無くなるであろうし、それに、信仰心が強くなれば、一度信じたことは翻さないで貫くだけの力が出て、脅迫あるいは誘惑に打ち勝つだけの国民になってくれるであろう。自分は自分の余生を、この二つの問題に注いでいきたいと思う」と述べられたという。

昭和天皇の、“教養を高めること”“信仰心を深めること”は、まさに「先哲に学ぶ人間学」の開催目的であり、今上陛下の、“より良い日本をつくる努力を続けること”は、赤字会社を一家でも減らし、黒字会社を一家でも増やすことであるのです。

私共の、最高法規である「経営理念」の実現こそが、経営者の経営者たる所以であると粋がっていたのが、実はその遥か向こうに、陛下の大御心があったのか！と、遅滞きながら知ることができ、感動と感激に打ち震えました。

日本人に生まれて本当に良かった！日本に生まれたのは、ただ事ではないぞ！この与えられた命を迂闊には使えないぞ！

靖國神社への、ここ三年間の正式参拝で得た、私の覚悟と、これからの実践をお誓いし、皆様への報告とご挨拶に代えさせていただきます。



今月のポイント

『国家の悠久性に対する確信』

迫水 久常